

原因不明な結膜下出血の「真の原因」って何？前編

「白目が真っ赤になりました。痛くもなんともないのですが周りの人が心配するので眼科に来ました。眼底出血でないか心配です。家族には『白目に出血すると脳の出血の前触れだぞ!』と脅されました…」こうした訴えのもと、ほぼ毎日2-3人の患者さんが当院を受診します。見た目が派手なので心配される方が多いのですが重篤な疾患では

ありません。病名は「特定の疾患に併発していない、誘因不明の結膜下出血」です。今回のフジタガンカニュースではこの「結膜下出血」という病態について考えてみたいと思います…まず「結膜下出血」とはどういう疾患なのでしょうか。それを知るには**市川海老蔵さん**の顔写真を見るのが一番です。傷害事件後の記者会見で、左目が赤くなっていた映像はまだ記憶に新しいところですが、この左目が「眼部打撲に伴う結膜下出血」という状態です。眼の白目の部分は強膜という強く白い膜のう上に透明の結膜という膜が覆って成り立っています。結膜には多くの毛細血管が走っており、目が充血するとよく見て取れます。この結膜の血管が破れて結膜下に血がたまったものが結膜下出血です。次に原因別に分類してみます。大きく分けて二つ「原因の明確な物」と「原因不明なもの」に分けられます。(明確な原因には眼要因(怪我、目の手術、急性結膜炎)と全身性疾患(白血病、マラリア、インフルエンザなど)がありますが、これについては参天製薬のホームページをご覧ください。下記にリンクを貼っておきます。)

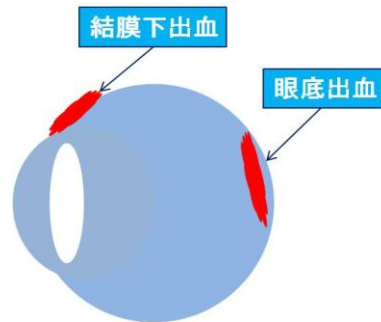


「原因が明確である」という事はすなわち「明らかな疾患を患っている」という意味を持ち「病態としてはやや重篤」という事になります。これに対して「原因が不明である」という事はすなわち「明らかな疾患を患っていない」という意味であり、

<http://www.santen.co.jp/health/ketumaku.shtml>

「原因が明確である」という事はすなわち「明らかな疾患を患っている」という意味を持ち「病態としてはやや重篤」という事になります。これに対して「原因が不明である」という事はすなわち「明らかな疾患を患っていない」という意味であり、

「ほぼ正常範囲内」と解釈をすることが出来ます。この文章の冒頭のエピソードは、あくまでもこの「原因が不明＝ほぼ正常範囲内」の結膜下出血を発症した患者さんのエピソードであり



原因疾患を有する結膜下出血とは異なる疾患としてとらえる必要があります。ここからはこの「原因不明(=軽症)の結膜下出血」に焦点を絞って説明を続けて行きます。「白目」が赤くなる状態は一般に「充血」という言葉で表現されるため、結膜下出血をおこした場合に「充血しちゃいました

(^_^;)と患者さんから訴えられることも多いのですが、充血は血管が拡張しただけの状態ですので出血とは異なります。また、黒目の真ん中の瞳孔部分には影響がないため、結膜下出血のみで視力が低下することはありません。「見た目に派手な病態(程度が強いとホラー映画の登場人物のようになってしまいます…)」なので初めて患った患者さんは驚かれる事が多いようです。痛み・異物感などの感性的な自覚症状が無い事も多く、鏡を見て初めて気がついたり、周囲の人に指摘されて気づく事も多いようです。また、眼底出血は文字どおり目の底(奥)のほうで起こる出血なので、表面からは見えません。(上図のように結膜下出血と眼底出血には相関はありません)

また「脳の出血の前触れだぞ!」は全くのナンセンス。ぜーんぜん関係ありません!ホラー映画の見過ぎ(笑)でしょうか?(13日の金曜日、エクソシストなんてもう古いですよ…)紙面の都合で今回の続きの内容は次回の後編に持ち越しです。お楽しみに—!



携帯サイト用QRコード

<http://www.fujita-ganka.com>



Fujita Eye Clinic

藤田眼科

042
(645)
0575